

2024年3月期 第2四半期 決算説明会



**Power Electronics
for Your Innovat!on**

サンケン電気株式会社

2023年11月8日

- 2023年度 第2四半期業績
- 2023年度 業績予想
- サンケンコア価値向上に向けて
- DX推進 / ESG経営

2023年度 第2四半期業績

- 売上高 1,216億円 前期比+156億円 (+15%)
うち、為替影響は+53億円。
上期公表値に対して+56億円。
- デバイス売上は、上期公表値に対して+54億円 (+5%)
 - ・車 +63億円 (+10%)
 - ・産機・民生 + 2億円 (+1%)
 - ・白物 ▲11億円 (▲4%)
- 営業利益 172億円 前期比+90億円 (+109%)
上期公表値に対して+3億円。
内訳：サンケンコア10億円、米国事業172億円、
連結調整他▲10億円。

(億円)

	22年度			23年度			上期 前年比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	増減率※
売上高	496	563	1,060	599	616	1,216	+156	+14.7
デバイス	483	545	1,027	586	605	1,191	+163	+15.9
旧ユニット	14	19	32	13	12	25	-8	-23.2
営業利益	9	73	82	85	86	172	+90	+109.3
経常利益	12	72	84	79	88	167	+83	+99.3
当期純利益	2	28	30	22	22	44	+15	+50.6

為替レート/US\$

134.05

141.07

※百万円単位で算出

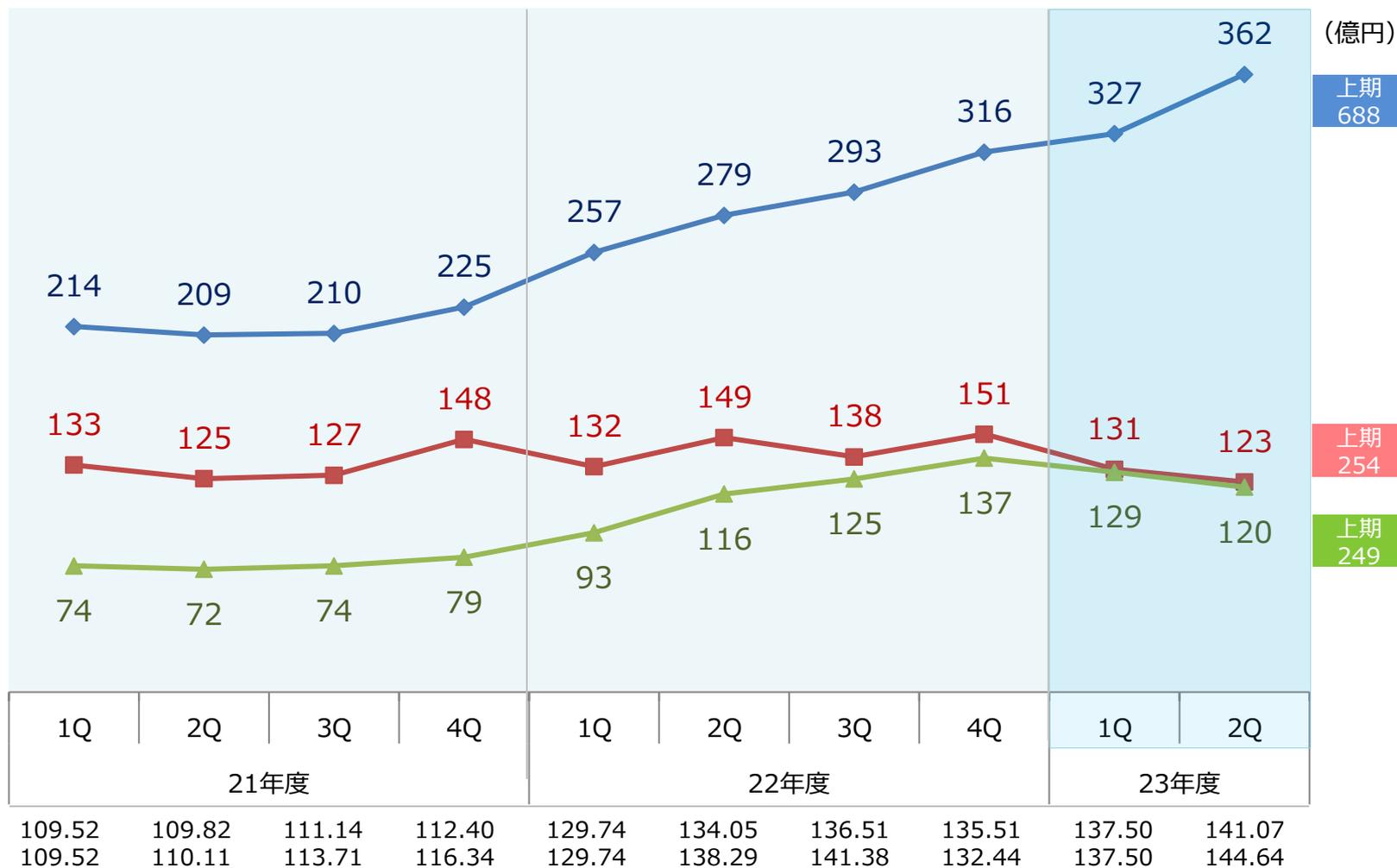
<主な変動要素>

営業費用 : 22年度上期 アレグロの前CEO退任による株式報酬費用 34億円
 その他 : 23年度上期 アレグロ等の非支配株主持分 89億円
 法人税等 27億円

市場別 デバイス連結売上高 四半期推移

上期 前年比

デバイス計 +16% (自動車 +28% 白物家電 ▲10% 産機・民生 +19%)



2023年度 業績予想

～予想の前提～

- 経済は世界的に停滞感が強まる見通し
- 米欧の高金利・高インフレ継続
- 中国の成長鈍化が企業活動や個人消費に影響
- 米中リスクとして、当社製品は対中規制受けず
- 需要減衰に伴う半導体・電子部品の在庫調整は当面継続
- UAWのストライキによる影響について当社顧客へ確認中

自動車市場

- CY2023 W/W OEM生産台数予測 89M台 (前年比+7M、年初比+3M)
- 電動化 (EVシフト) / ADASは拡大
- サプライチェーン在庫は徐々に積み増されているが、いまだ底堅い需要がある
- 実需に基づかないブランク手配から、適正リードタイムに基づく手配へ移行し各顧客の実態が見え始めている
- 下期は緩やかな伸長を想定
- 半導体不足下の旺盛な需要は軟化今後の調整局面を注視

当社下期見通し



白物家電市場

- 日系向け
市場：国内外とも需要低調
顧客：各社生産減
- 中国向け
市場：住宅販売の調整長期化
顧客：エアコン大手の生産計画は前年割れ、在庫過多により部品調達は調整継続
競合：中国メーカーのシェア増
- 韓国向け
市場：洗濯機が北米中心に伸長
顧客：生産計画は前年並み
今後の動向を確認
競合：エアコンは当社のシェア増

当社下期見通し



産機/民生市場

<産機>

- センサー・パワーデバイスは、データセンター向け等の停滞から、足元は調整局面であり、下期以降は実需の動向をしっかりと精査していく
- 業務用空調/AWHP（温水暖房）向けのパワーモジュール需要は拡大
開発案件数の増加に伴い、採用が進んでいる

<民生>

- TV向けは前下期から回復も、前年同期では横ばい基調

当社下期見通し



上期実績および下期の市況動向を踏まえ、5月公表値を修正

(億円)

	22年度			23年度 11月修正値			前期比		5月公表値比	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	増減率※	金額	増減率※
売上高	1,060	1,194	2,254	1,216	1,195	2,410	+156	+6.9	+10	+0.4
デバイス	1,027	1,159	2,187	1,191	1,170	2,361	+174	+8.0	+8	+0.3
旧ユニット	32	35	67	25	25	49	-18	-26.5	+2	+5.2
営業利益	82	180	262	172	123	295	+33	+12.6	-85	-22.5
経常利益	84	188	272	167	113	280	+8	+3.0	-80	-22.1
当期純利益	30	66	95	44	54	98	+3	+3.3	-42	-29.7
一株当たり 当期純利益 (円)	122.41	272.46	394.87	184.27	221.64	405.91	+11	+2.8	-174	-30.0

為替レート/US\$

135.51 141.07 **147** **144**

※百万円単位で算出

21中計進捗（最終年次）

前半と後半で大きく市況は変化 利益面に課題残る

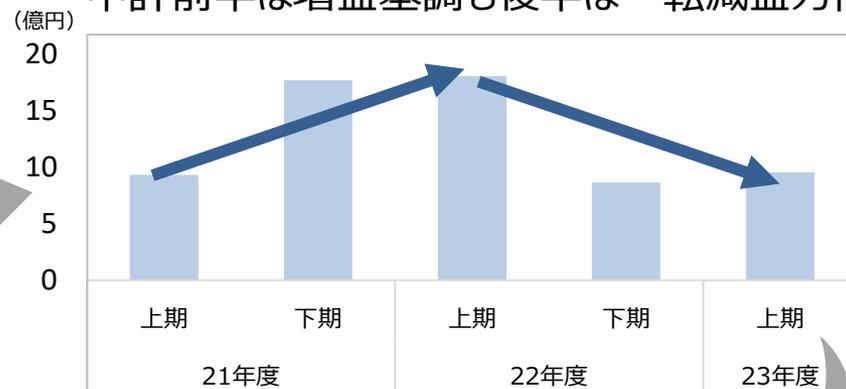
● 21中計目標

売上目標は大きく超過、営業利益率は一步届かず

23年度 連結目標（21年5月公表）		23年度 見通し
売上高	1,700億円以上	2,410億円
営業利益率	13%以上	12%

● サンケンコア営業利益

中計前半は増益基調も後半は一転減益方向



● サンケンコア利益に対する影響／評価

	項目	中計前半 実績 / 評価	中計後半 見通し / 評価
内部要因	新製品比率	○ 15% 比率UP	△ 14% xEV向け増も白物向け停滞
	開発品粗利率	○ 条件クリア	○ 条件クリア
外部要因	コスト (材料、電力等)	× 想定以上の増加	× コスト高止まり
	市況	○ 半導体不足で需要旺盛	× 市況悪化、部品在庫調整長期化

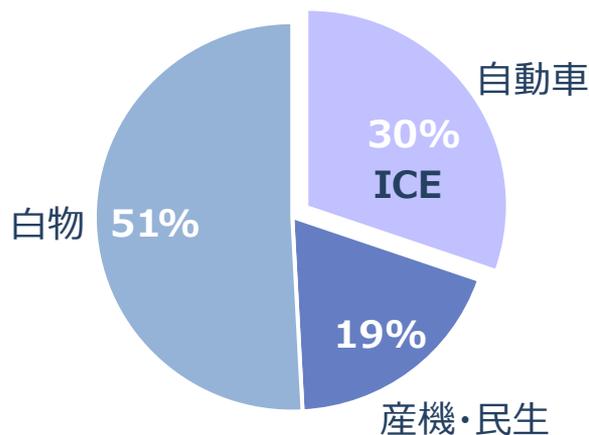
変化は必ず起きるという前提に基づき、利益確保の施策立案を推進

サンケンコア価値向上に向けて

培ってきた車載技術でxEVビジネスの躍進を図る

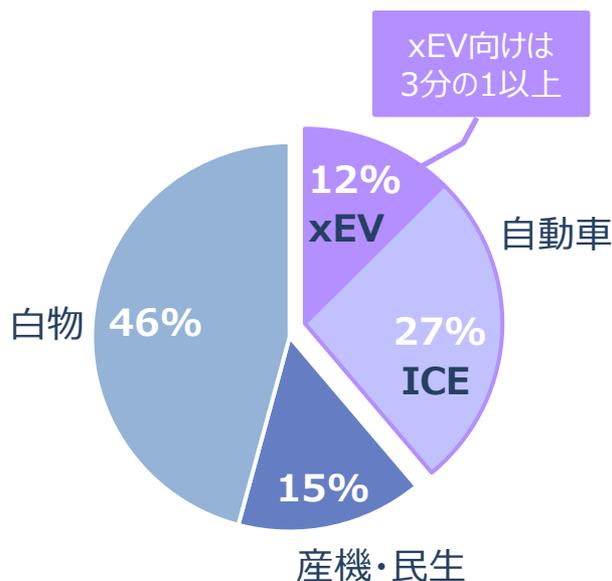
過去：18中計

- 自動車売上はICE（内燃機関）向けがメイン
- 白物比率 51%



現在：21中計

- 白物中心から自動車伸長へ
- 電動コンプレッサ向けなどの新製品が牽引、xEV売上拡大



未来：24中計

- EVトラクションモータ用パワーモジュールが本格拡大
- 自動車向け売上比率は50%超を狙う

自動車：
xEV向け さらに拡大

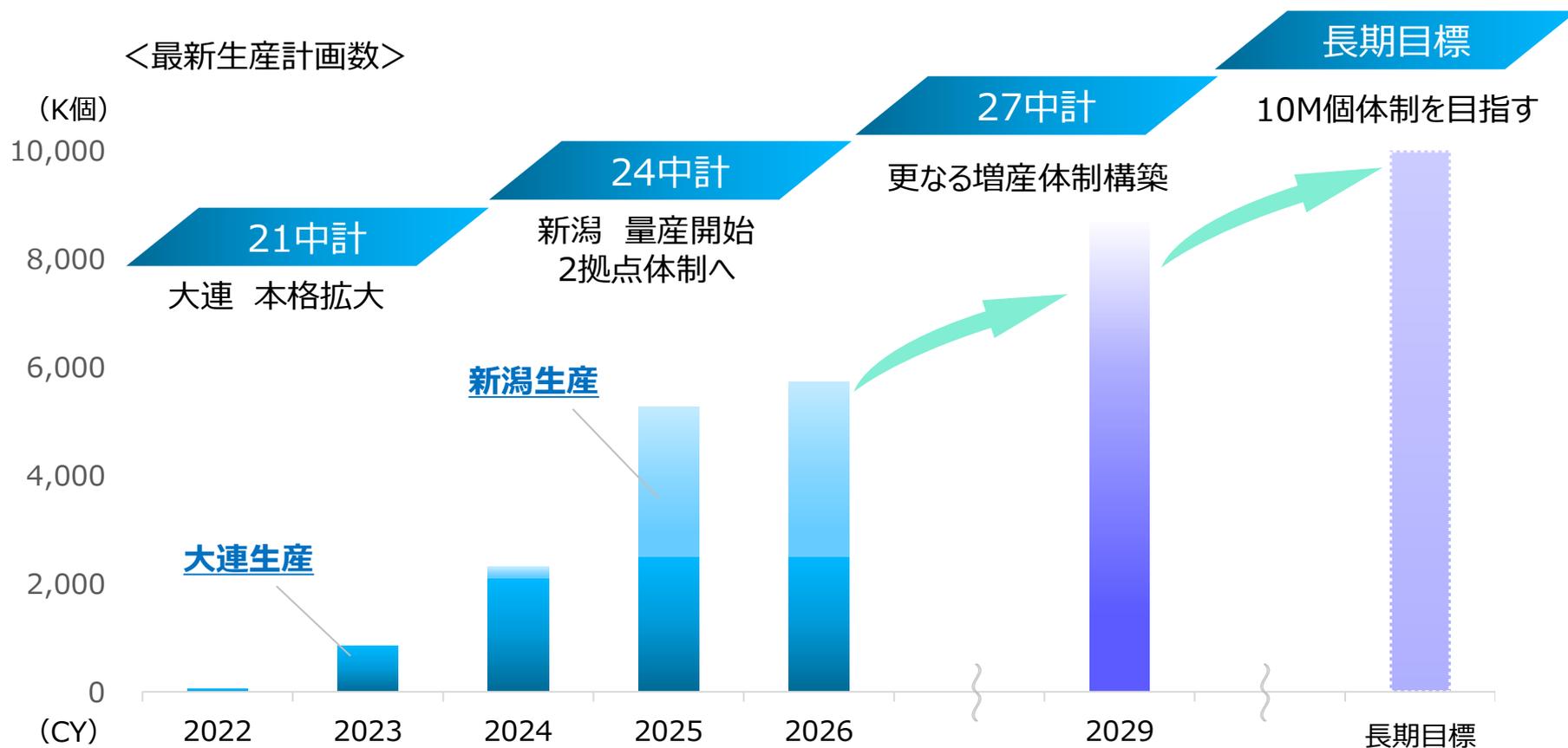
産機：
新用途・新製品で拡大

白物：
高採算品へのシフト

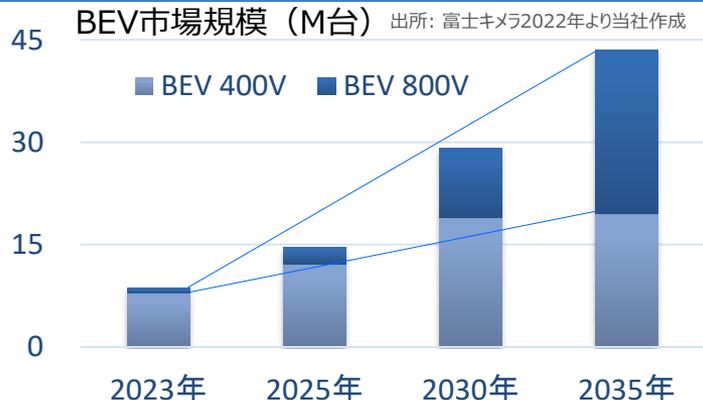
xEV成長戦略（EVトラクションモータ用パワーモジュール）

BEVの拡大による長期の成長戦略に変わりはない

- 大連サンケン：顧客の調達計画に沿った生産準備が順調に進行し、下期にかけて出荷増
- 新潟サンケン：本年5月設立、現在工場内の各インフラを整備中
来春 生産設備の設置を開始 2025年の量産開始を目指す



BEVの制御・補機システムは新アーキテクチャーに基づき大きく変化



BEVシステムの高電圧化 (800Vが拡大)

■ 高電圧化の目的

- ・**充電時間短縮**には、バッテリー冷却性能の強化が必要→e-Compを出力増強で活用

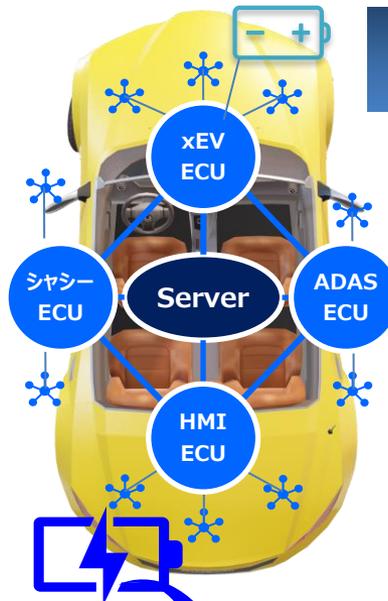
■ 2035年 50%超が800V化

■ パワーモジュールへのニーズ

高耐圧 / 高周波 / 低ノイズ / 小型



**SAM2 1200V車載グレード
開発中**



Zone ECU化が進む

■ Zone ECUの目的

- ・従来の分散型ECUを集約、各機能を少数のZoneにまとめ、効率化と精度向上を図る
- ・分散型に比べ、ECU電源の**機能強化**が図られる

■ パワーデバイスへのニーズ

- ・電源ICの**高機能化**
- ・リレー、ヒューズの**半導体化**アプローチが急増

高効率(低ON抵抗) / 高信頼性 / 小型

**IPD(Intelligent Power Device)・電源IC
を開発中**

ウェーハ生産能力確保/投資抑制の両立

■ PEファンドとの契約

- ・OEPとの正式契約締結は最終段階
- ・出資比率※：
OEP 55.5%、サンケン 31.15%、アレグロ 13.35%
- ・出資金額※：\$150M

※現時点の予定

■ 補助金申請状況

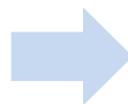
- ・米国CHIPS法の補助金申請は、
9月下旬にチップス・プログラム・オフィス
(CPO) にて正式受理
- ・ミネソタ州政府の補助金も申請中

■ PSLファンダリ化

PSL
供給体制の変化



現状



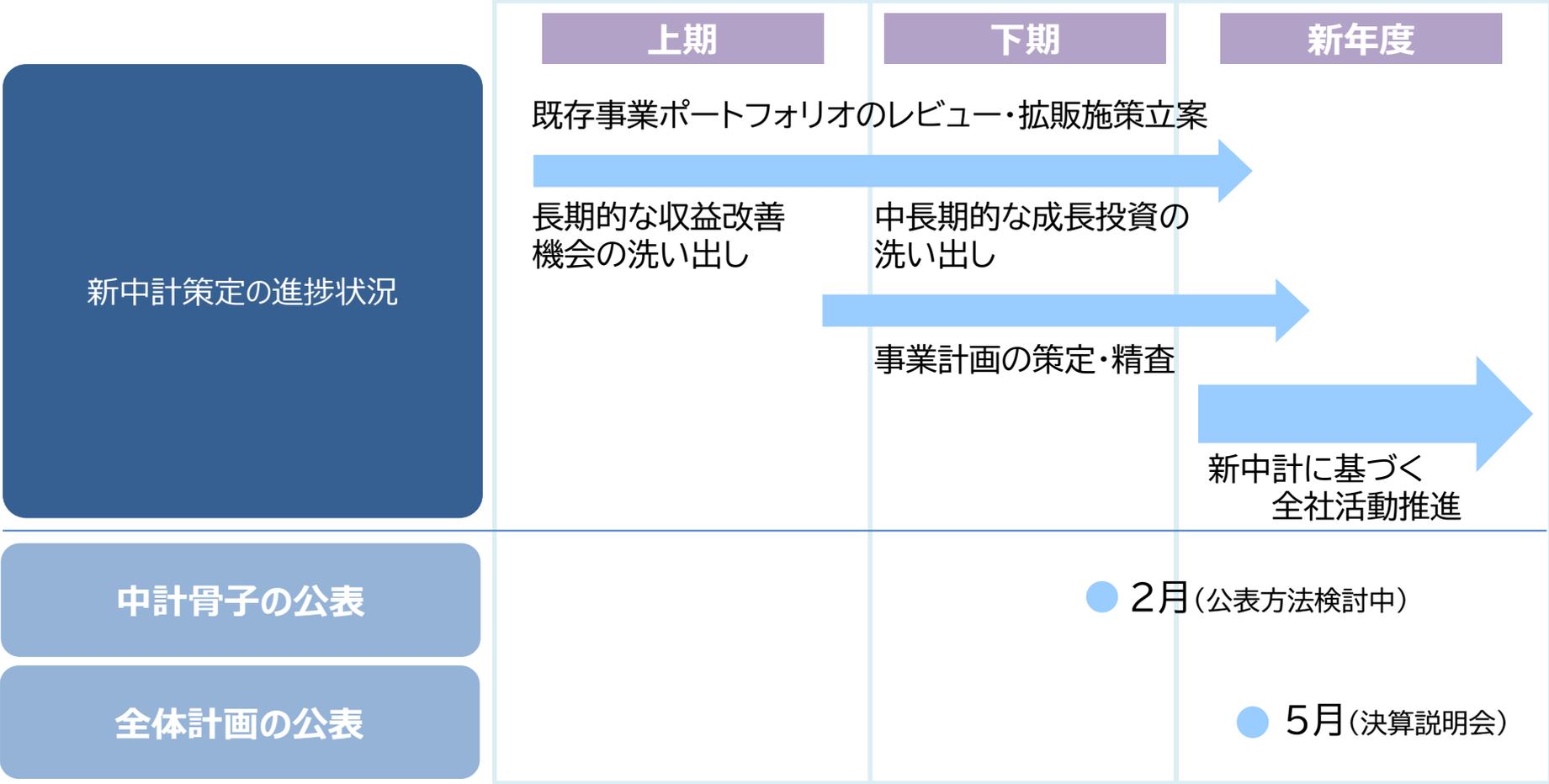
今後

設備搬入を順次行い、
2025年度に
生産能力拡大を計画

PSL非連結化は2023年度中を予定

24中計策定スケジュール

中長期のサンケンコア収益改善に向けて様々な活動を展開



短期的な収益改善余地を適切に見極め、具体的な施策を立案しつつ、将来に亘る事業ポートフォリオの検討を進め、中長期的な事業展開と併せて具体的なKPIを設定

DX推進 / ESG経営

サンケンのDXを推進し、24中計の基盤構築

アプリケーション

- 法改正対応
- RPA・AI活用
- データベース
基盤整備

ITインフラ

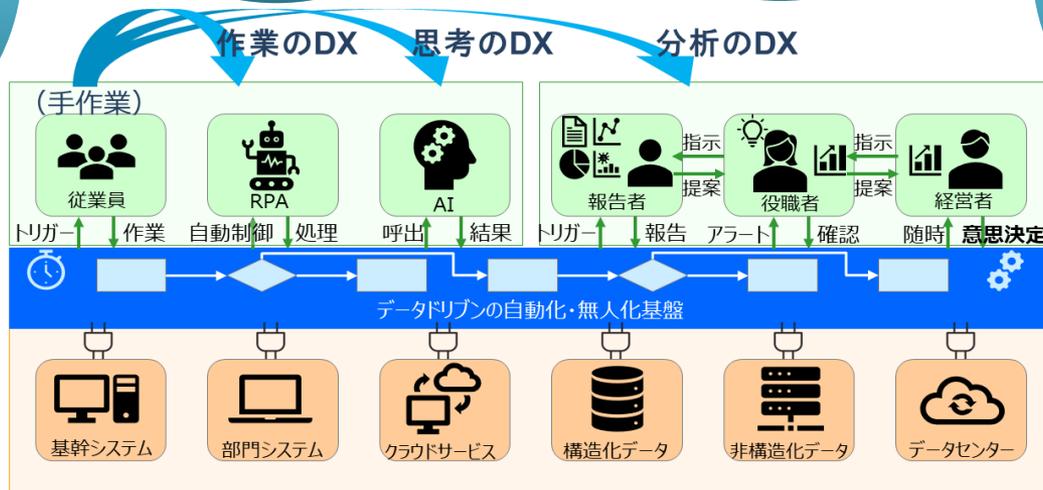
- ネットワーク増強・
サーバ・PC等整備
- 最新のセキュリティ
対策の導入

企業資源 最適化

- 基幹業務を
効率化する仕組み
の最適化

組織・人材

- IT人材強化
- 社内教育強化
(リスキリング)



経営の強いリーダーシップのもと、DXの諸施策を積極的に遂行中

ガバナンス体制の変革による成長戦略実現

■ 監査の実効性の更なる向上

- 監査等委員会、内部監査部門から取締役会へのデュアルレポーティングラインを構築

■ 経営の意思決定及び執行における一層の迅速化

- 業務執行の決定権限を取締役に委任する範囲を拡大

■ 社外取締役の過半数選任

- 多様性が一段と高まり、議論が活性化



ステークホルダーの期待に、よりの的確に答えていく



2024年3月期 第2四半期 決算説明会

将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社及び当社グループに関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1) 経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2) 為替レートの変動、(3) 技術進化への追隨の成否、(4) 原材料の高騰あるいは調達難、(5) 各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6) 偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。